

人工知能×アダプティブ・ラーニング！クラウド型学習システム「すらら」
すららネットが「SDGs ビジネスアワード 2017: スケールアウト賞」受賞
「Surala JUKU」における低価格で質の高い教育の提供・雇用機会創出が評価

株式会社すららネット（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：湯野川孝彦）は、5月26日（金）に開催された BoP Global Network Japan 主催、金沢工業大学平本研究室共催の「SDGs ビジネスアワード 2017」において、「スケールアウト賞」を受賞いたしました。「SDGs ビジネスアワード」は、国連に加盟する 193 か国が達成を目指す SDGs（持続可能な開発目標）に貢献する取り組みで、日本企業の SDGs ビジネスを国内外に広く伝えることを目的に設立されたものです。

■受賞理由

「SDGs ビジネスアワード」では、「エンゲージメント」（社会課題の解決に関心のない人をどれだけひきつけたか）、「エコシステム」（どれだけ複数の企業をまきこんだか）、「スケールアウト」（どれだけ成功モデルを再現し展開できたか）、「クロスボーダー」（途上国と先進国双方の課題解決に貢献したか）、「社会インパクト」「財務インパクト」の 6 つの共通の視点で審査が行われました。

すららネットが企画・開発を行った海外用の小学生向け算数クラウド型学習システム「Surala Ninja!」において、世界に通用する日本の忍者というキャラクターを用いることで、海外の子どもたちも親近感をもって楽しく学ぶこと、また、e-ラーニングという手法を用いたことで、いつでも、どこでも、だれでも、低価格で品質の高い教育が受けられること、現地の女性をファシリテーター（講師）として積極的に採用することで、雇用機会を創出していることなどが、特に「スケールアウト」という視点で高い評価を得ました。

すららネットは、JICA 中小企業海外展開支援事業の採択を受け、スリランカにおいて、現地における e-ラーニングビジネスの展開可能性の高さを確認し、「Surala JUKU」を事業化、「Surala Ninja!」を用いることで、教師のレベルに左右されずに効果性の高い算数教育を低所得者層の子どもを中心に低価格で提供しています。日本の算数技能を学ぶことができ、同時にパソコンの使い方が身につくこと、日本流の「しつけ」（規律や自立学習）も教えることなどが生徒や保護者より高評価を受けています。



■SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）とは

国連が全会一致で採択した、人間、地球及び繁栄のための行動計画としてかけられた 17 の目標と 169 のターゲット。SDGs をもとに国連に加盟するすべての国は、2030 年までに、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会など、持続可能な開発のための諸目標を達成すべく力を尽くす。（参考：国際連合広報センターHP）

■SDGs ビジネスアワードとは

日本中から日本企業による SDGs ビジネスの先行事例を選出し、その中で特に優れた取り組みを表彰することを通じて情報を世界に発信する、BoP Global Network Japan 主催、金沢工業大学平本研究室共催の取り組み。日本企業の中には、既にビジネスを通じて SDGs の達成に貢献している企業が多く存在する一方、その取り組みが英語で世界に公表されていることが少ない状況にあり、国際的な評価を通じた事業機会やネットワークの拡大機会を逸している可能性がある。そこで、表彰対象となった事業について、日本を代表するシンボリックな SDGs ビジネスとして日本語・英語でケーススタディを作成し、国際会議等において、その配布を行うことで、世界の学識者・政府関係者・国際機関関係者・企業・起業家・NGO 等、幅広いステークホルダーにアピールをする。（参考：金沢工業大学 HP）

すららネットでは、国内のみではなく、世界に向け、今後も品質の良い教育を低価格で提供することで社会の問題を解決していきたいと考えています。

■クラウド型学習システム「すらら」とは

【学習範囲】 小学1年生～高校3年生までの学習指導要領に準拠

【対応教科】 英語・数学（算数）・国語

【利用者数】 約40,000名（2017年4月末現在）

【特徴】

○Point 1 スモールステップでわかりやすいインタラクティブ授業

1つの単元は10から15分程度で、小さな階段を少しずつ上るような構成。

しかも授業は一方的ではなく、随所で先生役のキャラクターが問いかけを行い、問題に答えていくというインタラクティブスタイル。そのため、飽きることなく、適度な緊張感を持続し、楽しみながら学習を進めていくことが可能。

○Point 2 難易度調整や弱点診断ができる演習ドリル

一人ひとりの理解度に応じて出題される問題の難易度を調整する「出題難易度コントロールシステム」を搭載。「簡単すぎず難しすぎない」問題が出題されることで、達成感を感じ自信を深めながら、学習を進めることが可能に。また、何がわからないから問題が解けないのか理由を探る「弱点自動判別システム」も搭載。

○Point 3 現役の塾の先生による手厚いフォロー

いつまでにどこまでの学習をするかといった「月1回の目標設定」や、つまづいているところがないか「週1回程度の電話やメールでの進捗確認」など、継続して取り組めるよう現役塾講師がフォロー。また、クラウド型学習だからこそ、学習内容や正答率・解く速さなども詳細に把握できるので、お子様一人ひとりに応じたきめ細やかな学習指導が可能。

<参考>これまでのeラーニング教材の大半は以下の3パターン

1. 動画配信型：カリスマ講師のレクチャービデオを視聴するタイプ
「理解」にはすぐれているが「復讐」の部分がないためやりっぱなしになってしまい、実力が身につかない傾向がある。また、一方的な説明となるため、比較的意識の高いお子様でない、集中力が続かない。
2. 問題集型：問題集の結果をパソコンに打ち出して結果分析をするタイプ
「定着」にすぐれているが「理解」の部分がないため、学力の高い生徒でない、一人で学習を進めることが困難な傾向がある。
3. ゲーム型：携帯用ゲーム機などを使って学習するタイプ
非常に楽しく学習できるが、単語など復讐による暗記系が中心で、体系的な学習には不向き。

「すらら」はこうしたそれぞれの短所を補い、長所を相乗効果的に組合せた、理想の"次世代型教育システム"です。



■「すらら」の“アダプティブ・ラーニング”機能

生徒の解答結果から独自のアルゴリズムにより苦手部分を分析・特定し、生徒それぞれに最適化した学習すべき解説や問題を自動で提示する機能。学習者が苦手分野を自分で克服できるようにする。

■「すらら」の人工知能

AIが個々の生徒の学習データに基づき先生の代わりに生徒と対話を行う機能「AIサポーター」を搭載。慶應義塾大学 中室牧子研究室と行った共同研究の結果を受け、「努力を促す声掛け」を中心に変更し2017年4月16日より正式運用を開始。生徒の学習意欲の向上や学習習慣の定着を促す。

■ 株式会社すらら ネット 会社概要

- 設立：2008年8月 ○ 資本金：13,795万円 ○ 所在地：東京都千代田区内神田
- 事業内容：クラウド型学習システムによる教育サービスの提供および運用コンサルティング、マーケティングプロモーション及びホームページの運営
- 会社URL： <http://surala.jp/>
- 受賞歴：
 - ・第9回日本 e-Learning 大賞 文部科学大臣賞(2012年)
 - ・Japan Venture Awards 2014 中小機構理事長賞(2014年)
 - ・第2回「日本ベンチャー大賞」社会課題解決賞(審査委員会特別賞)(2016年)
 - ・第8回「千代田ビジネス大賞」大賞(2016年)